

平成 24 年度日本 N G O 連携無償資金協力
贈与契約署名式典
黒木 雅文 大使 スピーチ
平成 24 年 11 月 1 日 (木) 於：大使館多目的ホール

公益財団法人 国際開発救援財団
カンボジア事務所代表 高橋 明美様、
ご列席の皆様、

ノロドム・シハヌーク・カンボジア王国前国王陛下の御崩御に際し、カンボジア王室、カンボジア国政府及び国民の皆様に対し、心からのお悔やみを申し上げます。

本日、国際開発救援財団と、日本 N G O 連携無償資金協力案件「カンボジア国立小児病院手術病棟拡張支援事業」の贈与契約を署名することができました。

医療保健状況の改善は、持続的な開発の観点のみならず、人道的な観点からも非常に重要な課題です。特に小児医療分野のサービスの向上は、カンボジアの将来を担う子供達への投資という意味においても重要であり、カンボジア政府も、「保健セクター戦略計画」において、小児医療の改善を最重点課題として位置づけています。

日本政府は、1992年よりトップドナーとして幅広い分野においてカンボジアの復興・開発を支援してきています。保健分野についても、国立母子保健センターをはじめとする医療施設の整備や人材育成を通じて、カンボジアの保健医療分野の改善に貢献してきています。

カンボジアにおいては、政府の努力及びドナーの支援により、妊産婦死亡率及び乳幼児死亡率は近年大きく改善しておりますが、周辺諸国と比較すると未だに改善が遅れています。また、小児医療の拡充は喫緊の課題として認識されており、政府、ドナー、N G O が協力・連携して、相互に補完しながら改善に取り組んでいます。

日本のNGOの国際開発救援財団は、国立小児病院を拠点にして、1996年より小児外科に対する支援を開始し、これまで外科診療施設の改善、医療機材の整備、医療従事者への技術研修等を実施しています。その成果として、国立小児病院は小児外科医療の拠点としての地位を築くとともに、医療従事者の研修機関としての機能も強化することができたと聞いております。

国際開発救援財団が本年実施する事業は、小児外科支援事業を更に発展させるため、国立小児病院の外科部門における臨床機能及び研修機能の改善を目指していると承知しております。この事業の実施により、国立小児病院だけでなく地方病院のレベルも向上し、これら病院の小児外科患者約1万人が、より良い治療を受けられるようになることを期待しています。

最後になりますが、日本NGO連携無償資金協力は、日本のNGOが実施する草の根レベルに直接裨益する経済・社会開発事業に対する支援スキームです。本日署名した事業が対象地域の住民に直接裨益し、カンボジアと日本の更なる友好促進につながることを願って、私からの挨拶とさせていただきます。

ご静聴ありがとうございました。